



広島中央トピックス



▲体験発表をする兼友さん



▲家の光の体験発表をする小西さん



▲体験発表をする石田さん



▲家の光の体験発表をする加藤さん



▲家の光の椅子フラを披露する西条ブロックのグループ「カイノア フラ」

JA女性部広島中央地区本部は10月29日、「第5回女性部大会・家の光大会」を東広島芸術文化ホール「くらら」で開催しました。女性部員、関係者合わせて約240人が参加し、日頃の活動の成果を披露しました。

志和ブロックの兼友典子さんと川上支部の石田暁美さんが活動内容を発表。郷田支部の小西照枝さんと志和ブロックの加藤勝子さんが「家の光」誌を活用した活動を発表しました。

舞台発表では参加した6ブロックが踊りや歌などを披露しました。



▲あいさつをする女性部の渡邊美恵部長

日頃の活動成果を披露 第5回女性部大会・家の光大会

町探検でJA見学 中黒瀬小学校

東広島市立中黒瀬小学校2年生5人は11月15日、JA黒瀬支店と黒瀬アグリセンターを町探検で訪れました。

児童は、支店の窓口やアグリセンターの店舗、倉庫などの施設を見学しました。黒瀬アグリセンターの場田和樹センター長が、米の単位や重さ、品種などを説明。また、「野菜や種はどこで育てているのか」「どの商品が人気なのか」などの児童の質問にも答えました。

児童は、子ども向け雑誌「ちやくりん」の食農クイズに挑戦し、食や農業を楽しく学びました。



▲出荷された米の倉庫を見学する児童

地元を元気に 福富地区感謝祭

JA福富支店と福富アグリセンターは11月16日、福富町の久芳低温倉庫で感謝祭を開きました。約400人が来場。JA共済連広島の「地域・農業活性化取組支援助成金」を活用しました。

多世代の愛好家がダンスや歌などをステージで披露した他、川北神楽団が神楽ばやしを鳴り響かせました。支店ふれあい委員会はダイコンやハクサイなど旬の野菜や、こんにやくを販売。また、女性部によるうどんや炊き込みご飯も好評でした。



▲にぎわう会場



水稲

令和6年米産の 動向と作付け誘導について

◆令和6年産の作況・等級

農水省が11月19日に発表した令和6年産の全国の作況指数は、10月25日現在で101の「平年並み」でした。1カ月前の9月25日は102の「やや良」だったので、下方修正となりました。

作付け面積から作況を乗じた予想収穫量は679万2000tで、前回からは4万1000t下方修正されました。今から約20年前の平成初期での日本国内の米の生産量は約1000万tでしたので、今、日本国内で生産されている米の量がいかに減少しているのかがよくわかります。

「平成の米騒動」といわれた平成5年では日照不足による不作で全

国の収穫量が783万tに落ち込み、政府は緊急的に備蓄米の放出や外国から緊急輸入をすることで米不足を補いました。幸いにも、翌年の平成6年産の作柄が回復したことで米不足は一気に解消し、「平成の米騒動」は終息しました。

令和7年6月末時点の民間在庫予想数量は158万tに落ち込んだので、令和7年も低水準になる可能性があります。

6月末時点の民間在庫数量は、主食用米の需給状況を表す指標で、180万tから200万tを需給均衡の適正水準としています。今後の消費動向や輸入米の数量にもよりますが、今のまま推移することを前提にするなら「令和の米騒動」の終息は見通しが立たない状況です。もう一度平成の大不作のような年があれば、国内の食糧供給体制がこの数年で如何に脆弱化したかが露呈されることになるでしょう。農業者の減少により作付け面積が急速に減少している現在、「農業者の減少」「食糧の減少」となり、もはや飽食時代は昔のことで食糧不足はすぐ目の前にあります。

◆品種別の作付け提案

後継者不足や高齢化により急速に

野菜

農産物の価格は米をはじめとして上昇基調にあります。野菜の全国的な作付け面積は平成10年は約56万haでしたが令和4年は43万ha、25年で約25%減少しています。当然、施設化や農地集約により、農業生産の効率化が進んだ影響もあります。食糧を生産する農地の減少が進んでいることが野菜生産の面でもよくわかります。

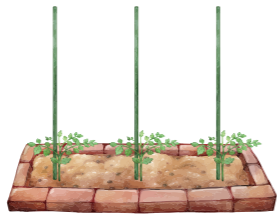
また、令和6年度では天候不順により、野菜価格の高騰が続いています。

野菜の価格は需給状況により比較的敏感に乱高下を繰り返すのが特徴ですが、昨今の動向では荷回りが減少すると高騰し、著しい価格の低迷が続くことが少なくなっているのが現状です。

市場関係者の話では、昔から市場流通を支えていた篤農家の世代が高齢化によりリタイア、栽培技術の継承ができていないため、安定して供給できる仕組みがないこと。

長年の経験により今後の入荷状況などをそれらの生産状況を聞くなかで予測していたものの、それが途絶えることで予測がつきにくくなったこと。

◆畑ごしらえ



さらには大型農業法人などは労働力不足から安定した収穫量が確保できなくなったため、供給量が安定しないことも要因の一つです。 コロナ禍では人流が制限されたため、家庭菜園がブームとなりました。作る喜びはもちろんです。できるところから自給してみようという考え方で、今一度家庭菜園を見直してみたいかがでしょうか。

どんな作物も土づくりが基本です。まずは水はけをよくすることから始まります。水はけの悪い圃場では何をつくってもうまくいきません。圃場内に水が滞水しないよう水の落とし口を広く深く確保し、雨が降っても速やかに水が流れるよう溝を確保しておきましょう。また、堆肥を十分に施すことで膨軟な土に変わってきます。硬い土から徐々に空気を含む柔らかかな土に変わること、作物に必要な水分は含むようになりやすくなります。ただし、堆肥の効果は堆肥の分解がすすみ「腐食酸」に

水稲の作付け面積が減少しています。広島県全体での令和6年産主食用水稲作付け面積は約2万1000haで前年から500haも減少しています。

米の需給環境は今後もひっ迫することが予想されていることから、生産者の皆さまには作付けの維持をお願いします。

JAでは契約販売による農業所得向上に取り組んでいますので作付け誘導品種の作付けにご協力ください。南部地区の「コシヒカリ」で高温障害が発生し、一等比率が低下しています。近年の記録的な猛暑の

コシヒカリ

南部域（黒瀬・西条・八本松）では特に高温障害による等級の低下が目立ちます。ブランド米「賀茂八十八」などの契約栽培には継続して取り組みますが、それ以外は品質向上を図るため北部域の作付けを中心に取り組みます。

あきろまん

広島県独自の品種で学校給食や家庭用を中心に需要があります。慢性的に供給量が不足していることから、主に北部域での作付け拡大に取り組みます。

恋の予感

特Aを3年連続取得し、需要がかなり高まっています。また、粒感がある食感で人気があり、供給量が大幅不足しています。南部域での作付け拡大に取り組みます。

あきさかり

収穫が早く、多収・耐暑性であることから品質収量が安定しています。全国的な米不足により需要は拡大しています。

なか品質向上のためには適地適作が重要ですので、高温耐性の「恋の予感」へ作付けを転換する必要があります。 広島中央地域は標高1000〜500mの高低差があるので地域に適した作付けが品質維持に必須です。 また、広島県ブランド米として販売強化を行なっている「あきろまん」「恋の予感」の需要が非常に高まっています。特に「恋の予感」は早い段階で終売になりそうな勢いで出荷が続いていますので、作付けの拡大をお願いいたします。

変わることで初めて発揮されます。堆肥は一度にたくさんではなく毎年適量（1a当たり200kg程度）を施すようにしましょう。

よく、家庭菜園を初めて一年目はうまくできたのに2年目以降が難しいと言っ意見を聞きます。これは、野菜などの作物を植えたことがない圃場は土壌養分が乏しく、偏りがないため与えた肥料が効率よく吸収されるためです。2年目以降は作物を連作することで土壌性病害の増加はもちろんです。土壌養分も偏っていくからです。先述のとおり堆肥が有効になるには数年かかりますので、堆肥を毎年適量散布するようにしておけば腐食酸や土壌微生物が増加し、肥沃な土壌に変わってきます。家庭菜園の鉄則として連作を避けるということがありますが、土が肥沃になればそのような障害は極端に減少します。

◆土づくり資材の投入について

植物の必須養分として窒素リン酸・カリの他、微量元素があります。微量元素の中には堆肥や用水に含まれ自給されるものもありますが、特に鉄分や石灰（必須養分）などはそれだけでは不足するため、積極的に補給することが必要になります。水稲で使う機会が多い「ミネラルG」は鉄分や石灰、ケイ酸分をバランス

◆土壌病害の回避について



よく含むため家庭菜園でも最適な資材です。1作当たり10〜20kg/1aを目安に施用しましょう。

連作障害などの土壌病害について、果菜類などの一般的な回避方法は接ぎ木苗を使用することです。台木に選択されているのは生育が旺盛なため一般的に実生苗と比較して豊作傾向となるので、接ぎ木苗は実生苗と比較して高価ですが大抵の場合元は取れます。

また、キャベツや白菜などの葉菜類ではそのようなものが使用できないため、定植前に殺菌剤を土壌混和し、病害を防ぐようにします。水稲で馴染みのある「オリゼメート粒剤」はキャベツの黒腐病や白菜の軟腐病などに、「モンガリット粒剤」はネギの白絹病などに、「アブラナ科植物の根こぶ病に使用する」「フロンスайд粉剤」はジャガイモのそうか病などに効果があります。 *農薬を使用する際には、必ずラベルを確認してください。

地域を元気にいいねがいっぱい!!

地域
応援

定期貯金



取扱期間

令和7年1月31日金まで

地域に JAひろしまは地域を応援します!!

お預入れいただいた金額の0.005%相当額を「広島県交通安全協会」「広島県みどり推進機構」へ寄附いたします。※お客様のご負担はありません。

プレミアム企画

定期貯金1,000万円以上を新規資金にてお預入れいただいた方は4種類の記念品の中から好きな品を4つお選びいただけます。

先着
200
セット

ご利用者のみなさまに

新規資金にて定期貯金をお預入れいただいた方へ

好きな記念品を300万円ごとに1つ進呈!!

1 JAひろしま管内
恋の予感(10kg・玄米)



限定
600個

2 比婆牛すき焼き用
(約250g・冷凍)



3 お米ポーク
トンカツ用(1kg・冷蔵)



4 合併記念品セット
(9地区加工品セット)



限定
200個

※写真はイメージです。※各記念品は、生育状況などにより代替品とさせていただきます。予めご了承ください。

預入期間 1年(定型方式) ※自動継続(元金継続または元利金継続)

(新規資金とは他の金融機関等からの現金持ち込み、または当JAの口座へ入金された日から1カ月以内の資金をいいます。)

お預入金額 新規資金で300万円以上1円単位 対象者 個人の方 詳しくは支店にお問い合わせください。

令和6年10月7日(月)現在

東広島市
園芸センターより

冬野菜の展示栽培についてご紹介します

園芸センターでは、冬場の栽培に適した有望品種の選定を行なっています。

露地

- ・白ネギ 3月～4月収穫
- ・ニンジン 1月～2月収穫
- ・キャベツ 3月～4月収穫



▲白ネギ

ビニールハウス

- ・ハウレンソウ



▲キャベツ

その他の作物についても随時、有望品種の比較展示栽培を行なっています。ぜひご来場いただいて、栽培の様子も併せてご覧ください。

お問い合わせ

東広島市園芸センター
Tel (082)433-4411

